



ニューハート・ワタナベ国際病院

渡邊 剛 総長

浜田山駅から徒歩6分、43床を有する5階建ての「ニューハート・ワタナベ国際病院」を訪ねた。総長の渡邊剛先生は、手術支援ロボット「ダヴィンチ」で心臓手術ができる心臓外科医のスペシャリスト。大学病院の教授などを歴任した後、2014年に念願の心臓専門の病院を開業。心臓大血管疾患および胸部疾患を中心とする高度専門治療を行う。また、多忙な毎日ながら小・中学生対象に自身が執刀する心臓手術の見学会を催すなど、子どもたちの未来のためにも尽力。「自分が生きている間、手術を必要とする一人でも多くの方に、日本で1番の手術をして差し上げたい」と熱く語る渡邊先生。輝かしい実績に奢ることなく、医療や人と真摯に向き合う姿勢や、優しく、時折ユーモアを交えながら丁寧にお話しして下さる姿が深く心に残った。

(取材日2014年8月4日)

心をこめた手術とホスピタリティを大切に するチームワタナベが集結

— 大学病院の教授などの職を歴任された後、新しいスタートを切った理由をお聞かせください。

私は手塚治虫氏原作の「ブラック・ジャック」に憧れて医師になったこともあり、最後は患者さんのためにすべてにおいて自分の理想を発揮できる心臓専門の病院を作りたいと考えていました。残された自分の人生の間で、一人でも多くの患者さんの手術に専念することが長年の夢だったので。ですから、大学病院での教授はいわば私の途中経過、仮の姿でしかなかった。41歳で金沢大学の教授になった際も、早く教授を辞めて自分の病院を持ちたいと思っていて、翌年には建物を探しに行くなど開業のために動き始めていましたね。いざ教授になると後輩ドクターらの応援もあり、気付けば13年間で、大学病院でしかできないことを経験させてもらいました。教授になった当時は心臓手術の発展段階で、人工心肺を用いないオフポンプ手術や今のようないん内視鏡はありませんでした。そういったオフポンプや内視鏡による手術を研究段階から一般的な医療段階まで高め、確立していくことは大学病院の充実した設備や体制、多くの方の協力があったからこそできたことです。そのほかにもさまざまな経験を経て、このたび条件が整い、患者さんに新しい心臓を差し上げたいという思いで院名を「ニューハート」とし、開業に至りました。

— 浜田山で開業された理由は。

リサーチの結果、杉並・世田谷区には約140万人もの高齢者が住んでいるにもかかわらず、心臓血管外科などの充実した病院がないため区外搬送が多く、医療圏としては十分ではない面があることがわかりました。そこで、脳や心臓に重大な疾患があり困っておられる人のサポートができればと思ったのです。他には杉並区の知人や建物と縁があったという理由が大きいですね。開業にあたり、

今までいっしょに多くの手術を手がけてきた、金沢大学附属病院や東京医科大学附属病院の「チームワタナベ」のメンバーたちがついてきてくれました。

— 医療コンシェルジュの方の温かい対応が印象的でした。

医療技術が高く、かつお越しいただいて気持ちの良い病院にしたいと思っていました。受付にコンシェルジュを配置したのも、不安な思いを抱えながら来られる患者さんに、少しでも気分良くなってもらうためです。心臓という臓器を扱う病院ということもあり、怖い思いをさせてしまったら不整脈が起る原因にもなりかねませんしね。いい環境のもとでなら食欲も増加し、心も元気になってもらえるでしょう。

— 他にも特徴的な設備について教えてください。

患者さんのご家族がリアルタイムで手術を見学できるスペースを設けました。見学室の窓から手術室の全体が見渡せるんですよ。手術を見たいとおっしゃるご家族は全体の約7割で、多くの方に見ていただいていますね。私たちは手術のすべてを見せるだけの自信がありますし、実際に見ていただければ、ドクターやスタッフがどんな動きをしているかが一目でわかり、より安心していただけたらと思います。

理想の医療が実現できる手術支援 ロボット「ダヴィンチ」との運命的な 出会い

— ダヴィンチに出会われた経緯を教えてください。

ドイツのハノーファー医科大学で2年半の臨床留学中、2000年にわたる手術を経験し、帰国後の1993年に人工心肺を用いず心臓を動かしたまま行うオフポンプ手術を成功させました。内視鏡を使った心臓手術にも傾倒していましたが、同時に内視鏡で

DATA ニューハート・ワタナベ国際病院
〒168-0065 東京都杉並区浜田山 3-19-11
TEL:03-3311-1119
浜田山駅 / 外科 心臓外科 外科 血管外科 麻酔科

🔍 で